

## 栃木県内出土の新羅土器について —西下谷田遺跡出土新羅土器を中心として—

いたばし まさゆき  
板橋 正幸

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| I はじめに            | V 栃木県外の出土様相と搬入背景 |
| II 西下谷田遺跡出土の新羅土器  | VI まとめ           |
| III 栃木県内出土の新羅土器   | VII 新羅土器出土地一覧    |
| IV 栃木県内の出土様相と搬入背景 |                  |

---

栃木県（下野国）において新羅土器は、宇都宮市前田遺跡・芳賀町免の内台遺跡の二遺跡からの出土が従来から知られており、『日本書紀』に見える新羅人の下野国移配記事との関連が考えられてきた。

ここ数年の発掘調査により、新たな新羅土器の出土が確認されている。中でも、宇都宮市茂原町・石橋町下古山所在の西下谷田遺跡では、複数の新羅土器を確認している。小論では、これらの資料をも含めて、栃木県内における新羅土器の出土様相を考えることにしたい。

また、ここで取り扱う新羅土器は、統一新羅様式（6世紀後葉頃以降）のみとする。

---

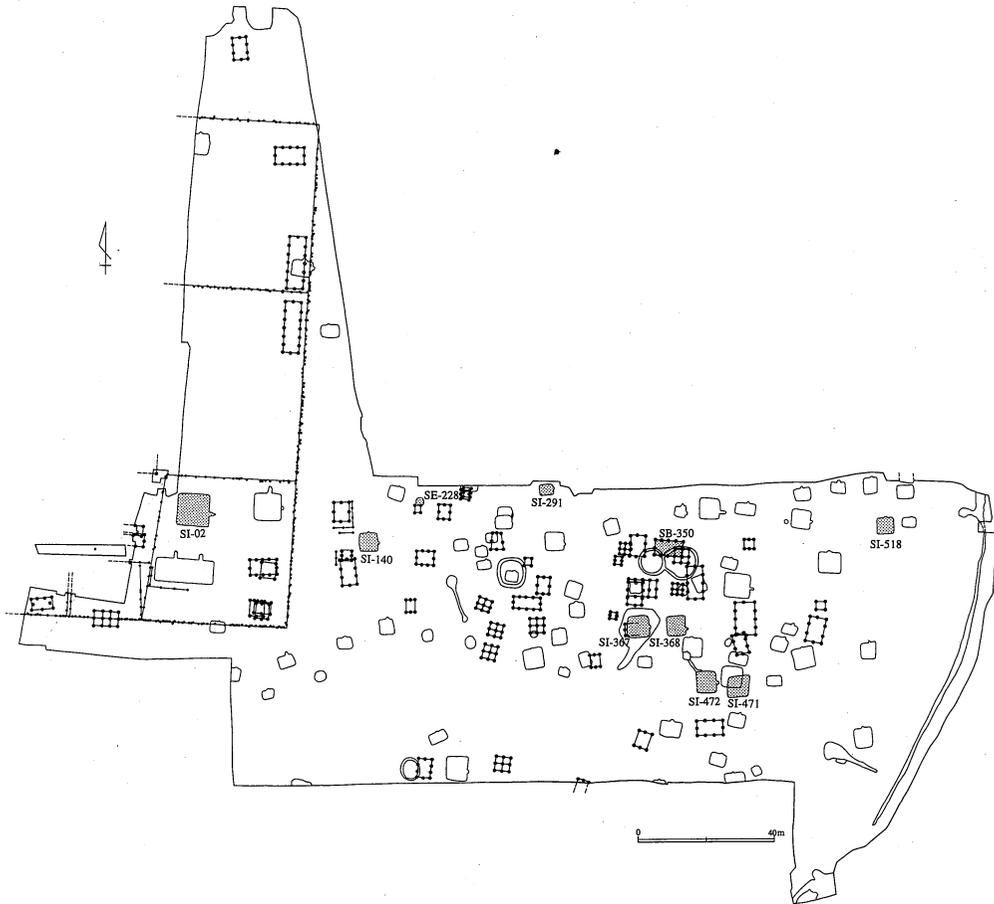
### I はじめに

西下谷田遺跡は、宇都宮市茂原町と下都賀郡石橋町下古山に所在している。立地は、宝木台地面の平坦面上であり、その台地は東側の低地に向かって緩く傾斜している。

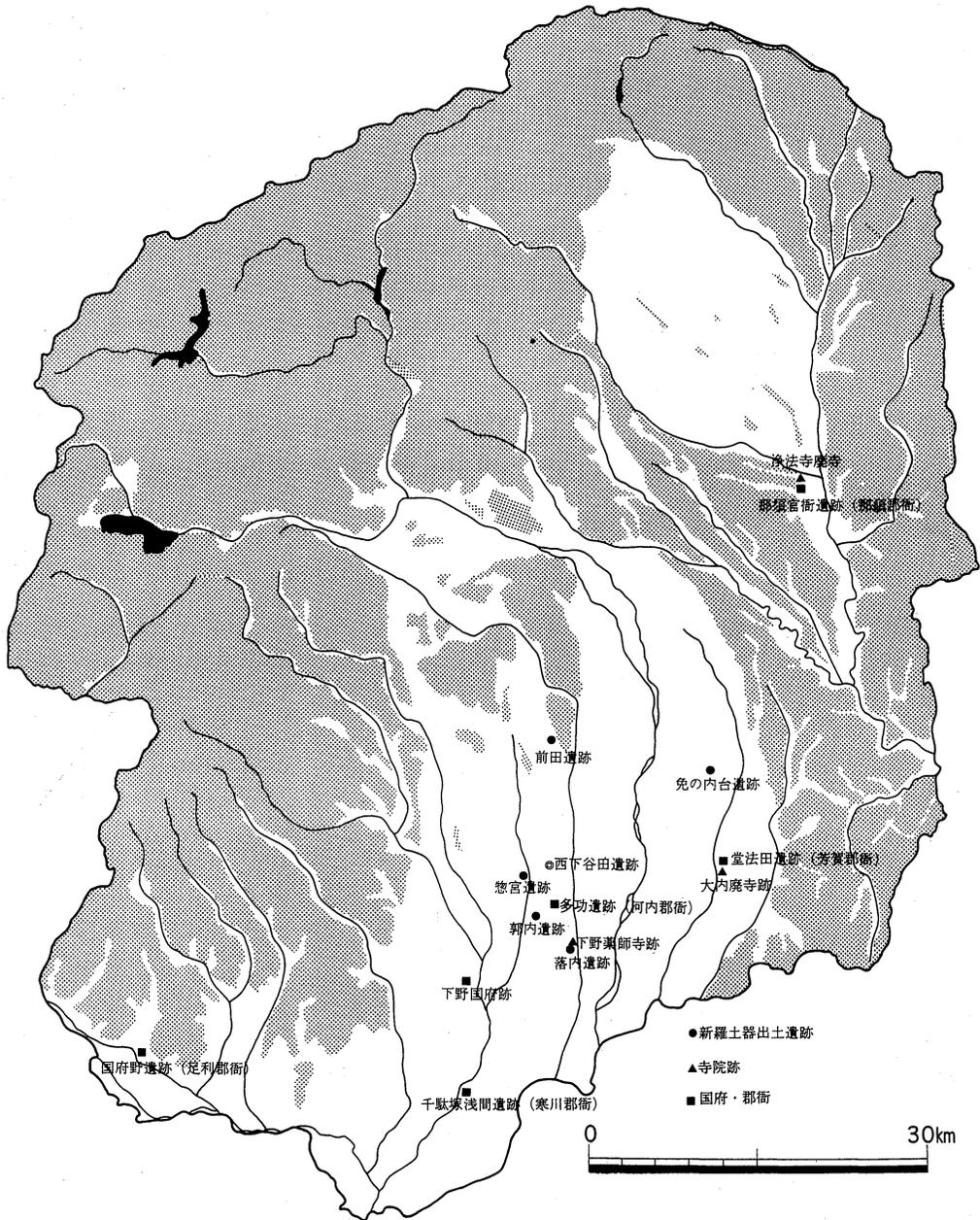
平成9年度から平成11年度の調査<sup>①</sup>ではつぎのような注目すべき遺構群を確認している。一つは、7世紀後半と考えられる掘立柱塀により方形に区画された施設である（以後この施設を方形区画施設と呼ぶ）。施設の規模は、東西推定108m・南北約150mであり、南辺塀列の中央に八脚門が取り付く。方形区画施設内部は掘立柱塀で区画されており、建物群が分けられている。方形区画施設内部からは、巨大なカマドを持つ大型の竪穴建物3棟・掘立柱建物14棟<sup>②</sup>を確認している。竪穴建物のうちSI-03は特に大型で、東西約17.2m・南北約7.2mで2基のカマドが取り付けられている。方形区画施設は、全体規模で立て替えを行っており、八脚門も棟門から立て替えられたものである。

方形区画施設以外では、7世紀後半から8世紀前半の竪穴住居71軒<sup>③</sup>・掘立柱建物42棟・井戸6基・円形有段土坑2基・水場遺構3基・水場遺構をつなぐ溝1条・粘土採掘坑1基・円形

周溝遺構2基・方形周溝遺構2基などを確認している<sup>(4)</sup> (第1図)。方形区画施設の東側には堅穴住居や掘立柱建物などの同時期の施設が所在するなど、周辺地区も方形区画施設との関連性は濃厚である。区画施設の性格を考える上では、周辺の台地に広がる関連遺跡を視野に入れての考察が求められる。特に、当遺跡の東方800mには、8世紀中葉に瓦葺きの大型倉庫が造営されるなど、河内郡の正倉と推測される上神主・茂原遺跡があり、当遺跡と共に考察されなければならないものとする。



第1図 遺構概略図・新羅土器出土位置図



第2図 栃木県内出土新羅土器分布図

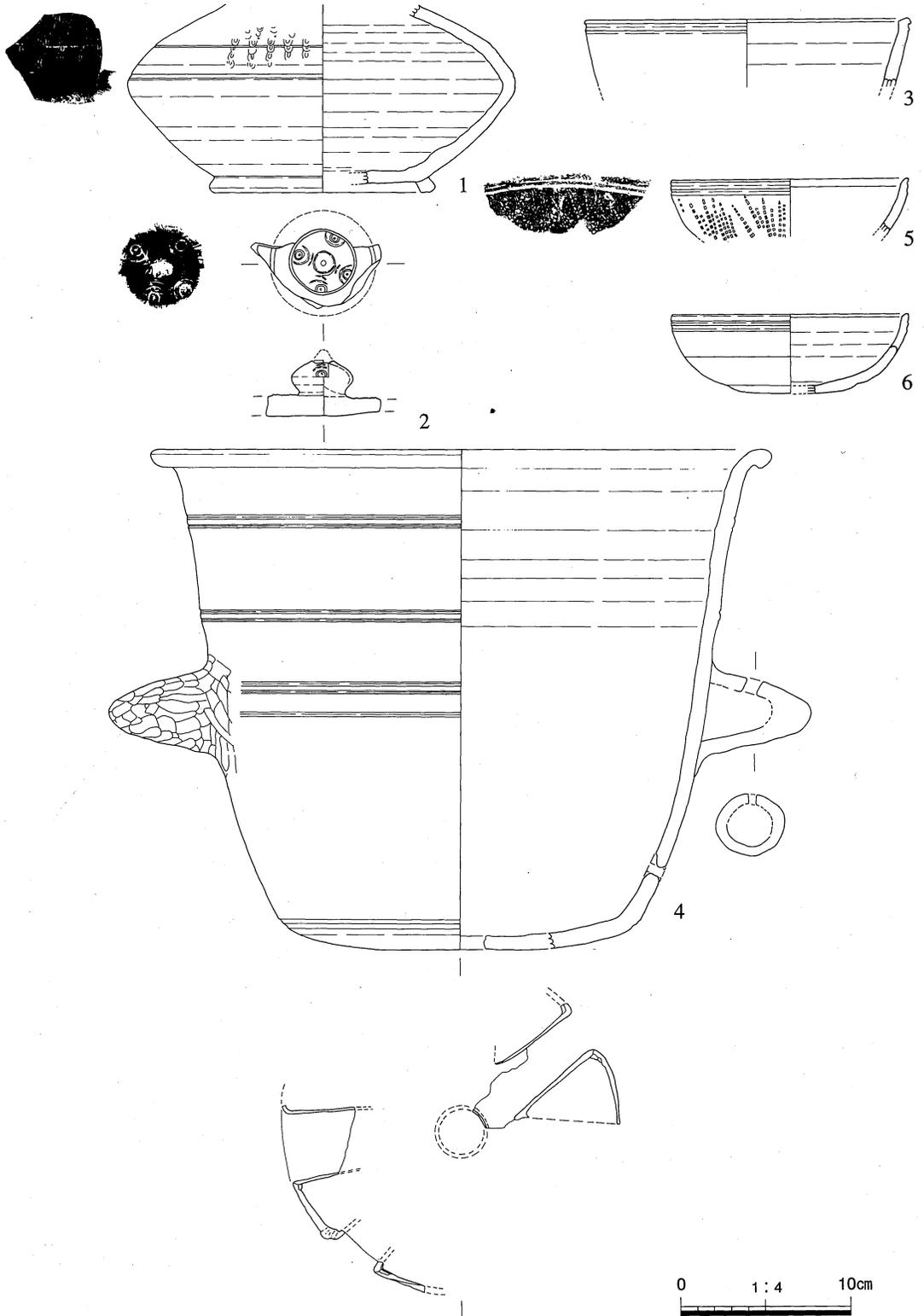
## II 西下谷田遺跡出土の新羅土器

西下谷田遺跡からは、新羅土器が6点出土している（第3図・表1）。

- (1) SI-02（方形区画施設内大型堅穴建物）・SI-140・SE-228埋土中から出土した長頸壺で、肩部に印花文が二段に施文されている。上段は3個以上一単位とした、下段は4個1単位とした縦長連続文a類（連続馬蹄形文）をA手法（単純押印手法）で施文している<sup>9)</sup>。底部には焼成時に付着した藁屑が溶着していることから、藁の上に正置して窯づめされた状況が推測できる。
- (2) SI-368（SD-380からの出土だが下層のSI-368と考えられる）出土の大型の蓋で、壺などの蓋と考えられる。コンパス描きと考えられる三重円弧文をつまみの上部に施文している。
- (3) SI-367出土の盒で、口縁部に二条の沈線がめぐる。
- (4) SI-367・368・471・518・SB-350南東隅柱抜き穴の埋土中から出土した甌である。体部の両側に把手が付き、三条の沈線がめぐる。把手は中空で、上面に切り込みを入れている。内外面はナデ仕上げであるが、内面には当て具痕が、外面も叩き目痕が消しきれずにわずかに観察できる。体部下半はヨコナデである。底部は平底で、蒸気孔は多孔である。底部付近に焼成後の小円孔が穿たれている。やや軟質の焼成である。
- (5) SI-472出土の盒で、口縁部に二条の沈線がめぐる。体部には印花文が施され、縦長連続文b類（列点文）をB手法（ブラシ手法）で施文している。
- (6) SI-291出土の盒で、底部は丸底で高台が付かない。口縁部に二条の沈線がめぐる。体部下半はロクロケズリ・上半がロクロナデ仕上げである。

第1表 栃木県内新羅土器出土地一覧

NO.	出土遺跡名	遺跡所在地	遺跡の性格	出土遺構	器種	印花文の種類と施文	時期	備考	郡名
1	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-02（方形区画施設内大型堅穴建物）・SI-140・SE-228上面	長頸壺	4個1単位とした縦長連続文a類（連続馬蹄形文）をA手法で施文	7世紀後半	底部に藁屑状の付着物	河内郡
2	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SD-380下層のSI-368か	蓋	二重円弧文をつまみの上部に施文	7世紀後半		河内郡
3	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SX-370下層のSI-367か	盒		7世紀後半		河内郡
4	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-367・368・471・518・SB-350	甌		7世紀後半		河内郡
5	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-472	盒	縦長連続文b類（列点文）をB手法で施文	7世紀後半		河内郡
6	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-291	盒（高台なし）		7世紀後半		河内郡
7	前田遺跡	宇都宮市上戸祭町	集落	SI-97	盒		7世紀末～8世紀初頭		河内郡
8	前田遺跡	宇都宮市上戸祭町	集落	SI-144	登台形土器		7世紀末～8世紀初頭	緑軸陶器	河内郡
9	兔の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台	集落	SI-306	盒		7世紀末～8世紀初頭	芳賀部	芳賀郡
10	兔の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台	集落	遺構外	盒		7世紀末～8世紀初頭	上記と同一層位か	芳賀郡
11	兔の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台	集落	SI-014	広口壺（肩部に二条の沈線）		7世紀末～8世紀初頭		芳賀郡
12	落内遺跡	河内郡南河内町薬師寺	薬師寺関連集落	遺構外	盒		8世紀前半か		河内郡
13	惣宮遺跡	下都賀郡石橋町下長田	集落	SI-40	壺（胴部）	胴部に、縦に二列の異なるスタンプ文様が施文されている①5個1単位とした縦長連続文a類（連続馬蹄形文）をA手法で施文し、その中間に變形文・楕円形文が縦長連続文を挟むように施文されている列②變形文と楕円形文が組み合わせて施文されている列	7世紀末～8世紀初頭		河内郡か（郡賀部の可能性もある）
14	郭内遺跡	下都賀郡石橋町石橋	集落	SI-03	広口壺（口縁部）		7世紀末	須恵埴の可能性もあり	河内郡



第3図 西下谷田遺跡出土の新羅土器

### Ⅲ 栃木県内出土の新羅土器

栃木県内の新羅土器は、西下谷田遺跡以外では宇都宮市前田遺跡・芳賀町免の内台遺跡・南河内町落内遺跡・壬生町惣宮遺跡・石橋町郭内遺跡の5遺跡から合計8点が出土している。

(第2図・第4図・第1表)

前田遺跡からは、盒(7)・緑釉陶器の器台形土器(8)の二点が出土している。いずれも住居跡埋土中の出土である。盒は、口縁部に二条の沈線が巡り、高台部の端部が内側に鋭く折れ曲がる。緑釉陶器は、報告では蓋とされていたが、酒井清治氏は小型器台形土器であると指摘する。

(酒井1996)

免の内台遺跡からは、盒二点(9・10)・広口壺(11)が出土している。(10は、9と同一個体の可能性がある。)盒(9)・広口壺は住居跡埋土中の出土である。盒は、前田遺跡出土のものより若干小さいが、同様の特徴を有する。広口壺は、肩部に二条沈線が巡る。

落内遺跡からも、前田遺跡・免の内台遺跡と同形の盒が出土している。

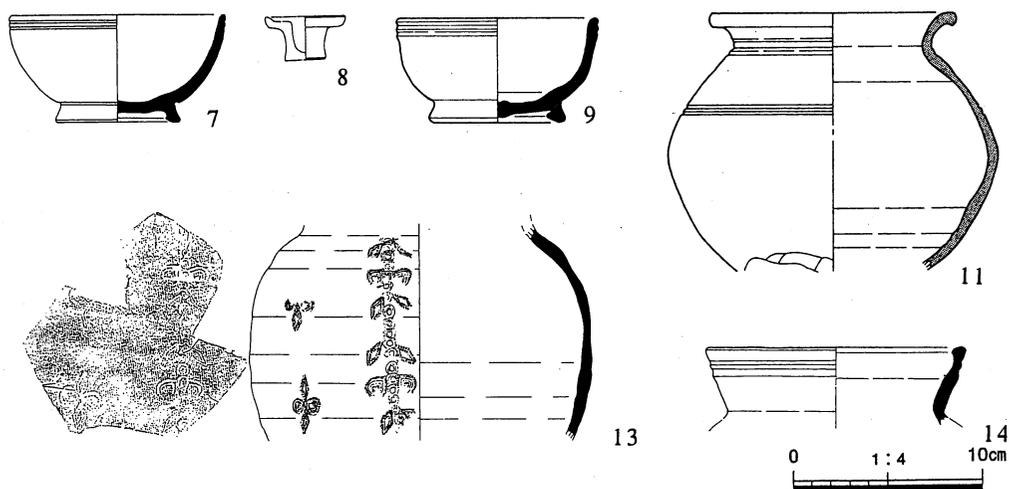
惣宮遺跡からは、胴部に印花文を施した壺(13)が住居跡埋土中から出土している。印花文は、縦方向に二列の異なる文様構成を持ち、肩部から胴部に向かって施文されている。

向かって右側の列は、5個1単位の縦長連続文a類を上下に押印した後、これを中心として両側に菱形文と楕円形文を交互に押印している。また、この菱形文と楕円形文の施文位置には、以下のような関係がうかがえる。

①縦長連続文の上から4個目と5個目の間に菱形文を押印

②縦長連続文の上から2個目と3個目の間に楕円形文、5個目を切って菱形文を押印

右側の文様構成は、①から②への繰り返して施文されている。



第4図 栃木県内出土の新羅土器

左側の列は、菱形文と楕円形文の組み合わせである。菱形文を上下方向に押印した後、それを基点として左右に楕円形文を押印している。

郭内遺跡からは、口縁部に二条の沈線を巡らせた広口壺(14)が、住居跡埋土中から出土している。

#### IV 栃木県内の出土様相と搬入背景

西下谷田遺跡と栃木県内出土の新羅土器を概観してきたが、栃木県内からはいずれも集落内からの出土で、古墳や宮都・官衙・官衙関連遺跡からの出土が多い傾向にある他県とは異なる出土様相を示している。

また、『日本書紀』<sup>6)</sup>には次のような新羅人の下野国移配記事が見られる。

- ・ 持統元年(687) 三月の丙戌に、投化ける新羅の十四人を以て、下毛野國に居らしむ。田を賦ひ稟受ひて、生業に安からしむ。
- ・ 持統3年(689) 夏四月の癸未の庚寅に、投化ける新羅人を以て、下毛野に居らしむ。
- ・ 持統4年(690) 八月の乙卯に、帰化ける新羅人等をもちて、下毛野國に居らしむ。

栃木県内出土の新羅土器が一般集落内から出土するということは、上記の『日本書紀』記事を裏付けているものと推測され、これらの新羅人が持ち込んだか、あるいは新羅土器を模倣して国内で焼成した可能性等が考えられる。また、県内出土分布(第2図)は、免の内台遺跡の芳賀郡(評)以外、河内郡(評)に偏っていることも興味深い。

西下谷田遺跡は、南辺塀中央に八脚門が取り付く方形区画施設を有するなど、一般的な集落とは遺跡の性格を異にする。時期も7世紀後半と考えられることから、下野国河内郡の評段階の官衙(評衙)の可能性もある。さらに、東方800mには河内郡の郡倉と考えられる上神主・茂原遺跡がある。また、8世紀初め頃までの国司は、拠点的な評衙・郡衙に駐在したり、諸評衙・郡衙を巡回していたという考え方もあり、実質的な地方行政支配の拠点が評衙・郡衙であったと推察されてもいる。(山中1994) このことから、7世紀後半段階の河内郡(評)は当国の中心的な郡(評)であって、西下谷田遺跡は当時の拠点的な評衙であったと推測しておくことも可能なように思われる。その西下谷田遺跡から、新羅土器がまとまって出土している意義について若干の考察を試みてみたい。

前田遺跡や免の内台遺跡からの新羅土器出土で、以前から『日本書紀』記事と関連づけて考察され、直接これらの遺跡に配されたと考えられてきた。しかし、拠点的な評衙と推測する西下谷田遺跡からは6点もの新羅土器がまとまって出土したことで、5世紀代の渡来人は在地集落へ混在し居住したこと及び、8世紀代は意図的に集住させられたとする見解(酒井1997)によって、下野に配された新羅人は西下谷田遺跡に在地集団と共に集住させられ、公的な業務に

関わったのではと考えられてくるのである。小論では、本遺跡に集住させられた後に、前田遺跡や免の内台遺跡などに二次的に移配されたと考えたい。

## V 栃木県外の出土様相と搬入背景

栃木県以外からは、現在のところ千葉県・島根県・山口県・大阪府・奈良県・京都府・長崎県（壱岐・対馬のみ）・福岡県の2府6県のみで確認されている<sup>7)</sup>。千葉県2点・島根県2点・山口県2遺跡5点・大阪府13遺跡19点・奈良県22遺跡18点・京都府2遺跡2点・長崎県（壱岐）2遺跡3点・長崎県（対馬）2遺跡5点・福岡県18遺跡26点の計63遺跡92点を数える。

（Ⅶ．新羅土器出土地一覧参照）その内訳は、古墳21遺跡、宮都・官衙・官衙関連遺跡16遺跡、寺院跡7遺跡、金属製品（銅・鉄等）生産遺跡・官営工房跡6遺跡、祭祀遺跡1遺跡、集落跡1遺跡<sup>8)</sup>、その他（自然流路・道路跡・性格不明遺跡・表採など）11遺跡と、古墳と宮都・官衙・官衙関連遺跡で出土遺跡の半数を占める。

古墳出土の新羅土器は、その半数が九州で出土しており、土器自体も古い様相を示している。それに対して畿内では、畿内出土数の三分の一が宮都・官衙・官衙関連遺跡からの出土である。

新羅土器の搬入理由として、古墳出土品は「氏族レベルあるいは個人レベルでの搬入」と考えられている。一方、宮都・官衙・官衙関連遺跡は「新羅からの使節の持ち込み及び日本から新羅に派遣された使節団の持ち帰りなどのような、国家レベルでの搬入」と推測されている。他に、寺院跡からの出土品は「宮都・官衙・官衙関連遺跡からの二次的搬入」、金属製品生産遺跡出土品は「直接的あるいは間接的に渡来系技術者の存在」が示唆されている。（江浦1988）また、島根県古八幡付近遺跡出土品は、日本と新羅が緊張状態にあった8世紀後半のもので、直接的な交流が示唆されており注目できる（松本2000）。

## Ⅵ まとめ

栃木県内の新羅土器は、6遺跡から合計14点が出土しており、その内の6点が西下谷田遺跡から出土している。新羅土器の出土点数から見れば、難波宮跡の6点（関係遺跡を含むと9点）と同数であり、現時点では拠点的な評価であったかと推測する西下谷田遺跡の特異性を示しているかのようである。このことは、『日本書紀』の新羅人下野国移配記事との強い関連性窺わせるものであり、さらには西下谷田遺跡周辺や河内郡（評）への新羅人集住の問題についても、視野を広げて研究を進めなければならないことを痛感させられるものである。

西下谷田遺跡は現在整理作業中であり、今後報告書をまとめるに当たって、遺跡の性格を考える上で重要な新羅土器を紹介・考察することでより多くの情報及び批判を願いたい。今後、新羅土器との相伴遺物なども検討し、新ためて西下谷田遺跡造営の歴史的背景に迫るべく考察

を進めていきたい。

本稿をまとめるにあたって、新羅土器等については酒寄雅志氏、早乙女雅博氏に有益なご助言をいただきました。また、植木茂雄氏・安藤美保氏には免の内台遺跡・惣宮遺跡の遺物の実見にご配慮をいただきました。最後になりましたが、記して深く感謝の意を表します。

#### 註

- (1) 西下谷田遺跡の調査区内、北半分を宇都宮市教育委員会が調査を行っている。
- (2) 掘立柱建物14棟の内2棟は今回の遺構概略図には記載していないが、道路拡張工事の立ち会い調査により、側柱式の掘立柱建物が八脚門の北西方向で確認されている。
- (3) 栃木県埋蔵文化財センター調査区内において宇都宮市教育委員会が調査した2軒を含む。
- (4) 宇都宮市教育委員会調査区からは、竪穴住居40軒・掘立柱建物11棟・古墳時代前期の竪穴住居14軒などが確認されている。
- (5) 新羅土器の印花文については、宮川禎一氏の『陶質土器と須恵器』日本の美術407を参考にさせていただいた。
- (6) 坂本太郎・家永三郎他 1994『日本書紀』下 日本古典文学大系新装版 岩波書店からの引用
- (7) 伝世品は除いている。
- (8) 福岡市博多区所在井相田C遺跡は、報告書では一般的な集落遺跡ではなく何らかの公的施設であると考えられている。

#### 引用・参考文献

- 江浦 洋 1988「日本出土の統一新羅系土器とその背景」『考古学雑誌』第74巻第2号日本考古学会
- 酒井清治 1996「下野国出土の統一新羅系緑釉陶器」『韓式系土器研究』VI 韓式系土器研究会
- 酒井清治 1997「関東の渡来人-朝鮮半島系土器から見た渡来人-」『生産の考古学』 倉田芳郎先生古稀記念 同成社
- 松本岩雄 2000「32 島根県」『日本考古学年報』51 日本考古学協会
- 山中敏史 1994『古代地方官衙遺跡の研究』 塙書房刊

Ⅶ 新羅土器出土地一覽

N.O.	出土遺跡名	遺跡所在地	遺跡の性格	出土遺構	器種	印花文の種類と編年	時期	備考	文献
栃木県									
1	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-02 (方形区画施設内大型型穴建物)・SI-140・SE-228	長頸壺	4個1単位とした縦長連続文a類 (連続馬蹄形文)をA手法で施文	7世紀後半	底部に菓屑状の付着物	1
2	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SD-380下層のSI-368か	蓋	二重円弧文をつまみの上部に施文	7世紀後半		1
3	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SX-370下層のSI-367か	盒		7世紀後半		1
4	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-367・368・471・518・SB-350	瓶		7世紀後半		1
5	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-472	盒	縦長連続文b類 (列点文)をB手法で施文	7世紀後半		1
6	西下谷田遺跡	宇都宮市茂原町下都賀郡石橋町下古山		SI-291	盒 (高台なし)		7世紀後半		1
7	前田遺跡	宇都宮市上戸祭町 集落		SI-97	盒		7世紀末～8世紀初頭		2
8	前田遺跡	宇都宮市上戸祭町 集落		SI-144	器台形土器		7世紀末～8世紀初頭	緑釉陶器	2・3
9	免の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台 集落		SI-306	盒		7世紀末～8世紀初頭		4
10	免の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台 集落		遺構外	盒		7世紀末～8世紀初頭	上記と同一個体か	5
11	免の内台遺跡	芳賀郡芳賀町芳賀台 集落		SI-014	広口壺 (肩部に二条の沈線)		7世紀末～8世紀初頭		5
12	落内遺跡	河内郡南河内町薬師寺	薬師寺関連集落	遺構外	盒		8世紀		6
13	惣宮遺跡	下都賀郡石橋町下長田 集落		SI-40	壺 (胴部)	胴部に、縦に二列の異なるスタンプ文様が施文されている①5個1単位とした縦長連続文a類 (連続馬蹄形文)をA手法で施文し、その中間に菱形文・楕円形文が縦長連続文を扶むように施文されている列②菱形文と楕円形文が組み合わせて施文されている列	7世紀末～8世紀初頭		7
14	郭内遺跡	下都賀郡石橋町石橋 集落		SI-03	広口壺 (口縁部)		7世紀末	須恵器の可能性もあり	8
千葉県									
15	野々間古墳	富津市上飯野	古墳 (方墳)		長頸壺	肩部に水滴形文と円弧文を施文	7世紀後半	緑釉陶器	9
16	野々間古墳	富津市上飯野	古墳 (方墳)		蓋		7世紀後半	緑釉陶器	9
島根県・山口県									
17	古八幡付近遺跡	江津市敬川町		西側斜面	長頸壺	肩部にあり	8世紀後半		10
18	古八幡付近遺跡	江津市敬川町		西側斜面	瓶	胴部にあり	8世紀後半		10
19	心光寺2号墳	豊浦郡豊浦町	古墳		蓋		6世紀末		11
20	心光寺2号墳	豊浦郡豊浦町	古墳		蓋		6世紀末		11
21	心光寺2号墳	豊浦郡豊浦町	古墳		台付き杯		6世紀末		11
22	心光寺2号墳	豊浦郡豊浦町	古墳		台付き皿		6世紀末		11
23	国秀遺跡	美祿郡秋芳町	銅・鉄製品生産遺跡	竪穴住居	高坏		7世紀前半		12
大阪府									
24	東郷遺跡	八尾市	自然流路	自然流路	長頸壺	肩部に水滴形文・円弧文・多弁花文を施文	7世紀～8世紀初頭		13
25	野々上遺跡	羽曳野市野々上		矢倉古墳周溝上層土器溜	長頸壺	肩部に円弧文を全面施文	7世紀～8世紀初頭		14
26	太井遺跡	南河内郡美原町太井	銅製品生産遺跡	溝54	盒	7個1単位とした縦長連続文a類 (連続馬蹄形文)をA手法で施文	7世紀後半		15
27	アカハゲ古墳	南河内郡南河内町平石	古墳 (円墳)		円弧文	円弧文	7世紀	褐釉陶器	16
28	国府遺跡	藤井寺市		大津道推定地	長頸壺	鋸歯文・円弧文を施文	7世紀		17
29	小山遺跡	藤井寺市小山	祭祀跡	SX-202	小壺	縦長連続文a類 (連続馬蹄形文)と具象文を施文	7世紀～8世紀	緑釉陶器	18
30	中野遺跡	富田林市		包含層7層	長頸壺	半円点文	7世紀～8世紀		19
31	中野・新堂遺跡	富田林市			長頸壺	鋸歯文と円弧文を施文	7世紀		20
32	新池遺跡	高槻市		南群包含層	長頸壺	水滴形文と円弧文を施文	7世紀後半		21
33	四天王寺跡	大阪市	寺院跡	食堂跡整地層	長頸壺	具象文と多弁花文を施文	7世紀		17・20
34	大坂城跡	大阪市	谷部	谷1南端部9c層	円弧文	円弧文	7世紀	緑釉陶器	22
35	難波宮跡 (NW83-20)	大阪市中央区龍造寺	前期難波宮	土坑 (SK-01)	広口壺	鋸歯文と円弧文を施文	7世紀		20・23
36	難波宮跡 (NW90-29)	大阪市中央区龍造寺	谷地	谷地11層	甕	外面叩き・頸部に円弧文	7世紀	土師質内外面黒色の焼き上がり	24
37	難波宮跡	大阪市中央区	前期難波宮	内裏南門 (SB3301) 北側柱列東第柱抜取埋土中	長頸壺	ヘラ書き鋸歯文と円弧文を施文	7世紀中葉		25

NO.	出土遺跡名	遺跡所在地	遺跡の性格	出土遺構・位置	器種	印花文の種類	時期	備考	文献
38	難波宮跡	大阪市中央区	前期難波宮水利施設(SG301) 造営以前の谷地	後世の地層	短頸壺	へら描き鋳造文と円弧文を施文	7世紀中葉		26
39	難波宮跡	大阪市中央区	前期難波宮水利施設(SG301) 造営以前の谷地	前期難波宮水利施設(SG301) 下層8a層	長頸壺	へら描き鋳造文と水滴形文・円弧文を施文	7世紀中葉		26
40	難波宮跡	大阪市中央区	前期難波宮水利施設(SG301) 造営以前の谷地		長頸壺	鋳造文と円弧文を施文	7世紀		20
41	東中学校跡地	大阪市中央区釣鐘町		土坑	長頸壺	鋳造文と円弧文を施文	7世紀		24
42	東中学校跡地	大阪市中央区釣鐘町		土坑	長頸壺	水滴形文と円弧文を施文	7世紀	緑釉陶器	24
奈良県									
43	藤原宮跡	橿原市	東方官街地区	土坑	蓋	縦長連続文	7世紀後半		17・27
44	藤原宮跡	橿原市	内裏東外郭地区	包含層	長頸壺	肩部に水滴形文・円弧文・縦長連続文を施文	7世紀後半		17
45	藤原宮跡左京六条三坊	橿原市	宮都	SD-4130	獸脚円面硯		7世紀後半	緑釉陶器	28
46	石神遺跡	高市郡明日香村	藤原宮期整地層		長頸壺	頸部に水滴形文・肩部に鋳造文・円弧文を施文	7世紀後半		29
47	石神遺跡	高市郡明日香村			長頸壺		7世紀後半		30
48	石神遺跡	高市郡明日香村			獸脚円面硯		7世紀後半		29
49	石神遺跡	高市郡明日香村			坏	体部に2条の沈線と3条の小突起列	7世紀後半	緑釉陶器	31
50	小曇田宮推定地	高市郡明日香村			長頸壺	胴部に鋳造文・半円点文を施文	7世紀		31
51	大官大寺跡下層遺跡	高市郡明日香村		土坑(SK-121)	長頸壺		7世紀	緑釉陶器	32・33
52	豊浦寺跡	高市郡明日香村	寺院跡	講堂雨落ち溝	長頸壺	水滴形文・半円点文を施文	7世紀	緑釉陶器	33・34
53	橘寺跡	高市郡明日香村	寺院跡	講堂北整地層	壺	へら描き連弁文と竹管文を施文	9世紀～10世紀	白釉陶器	33・35
54	雷庵寺跡	高市郡明日香村	寺院跡		壺			緑釉陶器	33
55	飛鳥寺跡	高市郡明日香村	寺院跡		蓋	あり	7世紀	緑釉陶器	33
56	西橋遺跡	高市郡明日香村	鉄製品生産遺跡	鍛冶炉(SX-7)(廃棄土坑)	蓋	縦長連続文a類(連続馬蹄形文)を施文	7世紀後半		30
57	飛鳥池遺跡	高市郡明日香村	官営工房跡		長頸壺	へら描き鋳造文(?)と貼付文を施文	7世紀	緑釉陶器	33・36
58	飛鳥池遺跡	高市郡明日香村	官営工房跡		蓋	円弧文か	7世紀	緑釉陶器	33・36
59	法隆寺	生駒郡斑鳩町	寺院跡		獸脚円面硯		7世紀		33
60	神木坂3号墳	宇陀郡榛原町	古墳	横穴式石室内擾乱層	壺	水滴形文と半円点文を施文	7世紀		37
61	南山古墳群	橿原市南山	古墳	包含層	蓋	縦長連続文a類(連続馬蹄形文)を施文	7世紀後半		38・39
62	阿部ノ前	桜井市阿部		包含層(試掘トレンチ)	長頸壺	肩部に円弧文を施文	7世紀		40
63	大西ヶ谷	桜井市高田		土坑裏付近(試掘トレンチ内)	蓋		7世紀	3条の沈線	40
64	長林新池	天理市楽木町		表探	壺	多弁花文と縦長連続文c類(波形文)を施文	8世紀		41
65	平城宮東院	奈良市	宮都		壺	四弁花文と紡錘形の文様を施文	8世紀	緑釉陶器	33・42
66	平城宮内裏東方	奈良市	宮都	東大溝(SD-2700)	壺	頸部に「回」字状の文様を施文	8世紀		43
67	平城京左京九条三坊十坪	奈良市	宮都	土器溜	壺	縦長連続文と横長連続文d類・多弁花文を施文	8世紀		42・44
68	平城京左京九条三坊十坪	奈良市	宮都	井戸	扁瓶		8世紀	外面平行叩き	42
69	平城京右京八条一坊十四坪	奈良市・大和郡山市	宮都(銅製品工房跡)	土坑	瓶	縦長連続文b類(列点文)をc手法で施文	8世紀		42・45
70	平城京左京八条一条間跡位置	奈良市	宮都	東堀河	把手付き壺		8世紀		42
京都府									
71	大覚地3号墳(南天塚古墳)	京都市	古墳(方墳)	横穴式石室内	長頸壺	肩部に鋳造文・半円文を施文	7世紀初頭		46
72	久世庵寺跡	城陽市	寺院跡	講堂周辺包含層	硯蓋	円弧文	7世紀～8世紀	緑釉陶器	30・33
長崎県									
73	コフノ塚遺跡	上県郡上対馬町	石棺墓	A地点第9号遺構	長頸壺		7世紀		47
74	コフノ塚遺跡	上県郡上対馬町	石棺墓	A地点第9号遺構	長頸壺		7世紀		47
75	コフノ塚遺跡	上県郡上対馬町	石棺墓	A地点第10号遺構	長頸壺	頸部から肩部にかけて縦長連続文a類(連続馬蹄形文)・多弁花文・菱形文を施文	7世紀後半か		47
76	コフノ塚遺跡	上県郡上対馬町	石棺墓	B地点第1号遺構	長頸壺	頸部に円弧文	7世紀		47
77	保床山古墳	下県郡飯原町	古墳(円墳)		壺		7世紀後半		30
78	双六古墳	壱岐郡勝本町	古墳(前方後円墳)		短頸壺	肩部に鋳造文(へら描きか)・円弧文を施文	6世紀後半		48
79	鬼の窟古墳	壱岐郡芦辺町	古墳(円墳)	石室内	壺か	鋳造文・半円文を施文	6世紀後半～7世紀前半		49
80	鬼の窟古墳	壱岐郡芦辺町	古墳(円墳)	石室内	壺か	円弧文を施文	6世紀後半～8世紀前半		49

NO.	出土遺跡名	遺跡所在地	遺跡の性格	出土遺構・位置	器種	印花文の種類	時期	備考	文献
福岡県									
81	王城山C古墳群5号墳	大野城市乙金	古墳(円墳)	東周溝内	扁平蓋	肩部に鋸歯文・円弧文を施文	6世紀末～7世紀前葉		50
82	王城山C古墳群6・7号墳間周溝	大野城市乙金	古墳(円墳)	6・7号墳間周溝内	蓋		7世紀		50
83	王城山C古墳群9号墳	大野城市乙金	古墳(円墳)	石室床面	蓋		6世紀末～7世紀初頭		50
84	王城山C古墳群11号墳	大野城市乙金	古墳(円墳)	周溝内	長頸壺	円弧文を施文	7世紀中葉		50
85	王城山C古墳群15号墳	大野城市乙金	古墳(円墳)	羨道入口前	壺	円弧文を施文	7世紀		50
86	王城山C古墳群16号墳	大野城市乙金	古墳(円墳)		壺	円弧文・水滴形文を施文	7世紀		50
87	相原2号墳	宗像市河東	古墳(円墳)	墓道	壺	円弧文・水滴形文・多弁花文と円弧文を組み合わせた花文状文様を施文	7世紀前葉		51・52
88	太宰府跡	太宰府市	官衙	蔵司前面整地層	壺		7世紀		30
89	太宰府条坊跡	太宰府市通古賀	官衙	窪み状遺構(115SX164・167)	長頸壺	円弧文・縦長連続文a類を施文	7世紀後半		53
90	三郎九古墳群3号墳	福岡市早良区	古墳(円墳)		広口壺	頸部に半円点文・菊花常状文、肩部にヘラ描き鋸歯文・半円点文を施文	7世紀前半		51
91	吉武塚原古墳群1号墳	福岡市西区	古墳(円墳)	周溝	壺		7世紀		54
92	吉武塚原古墳群8号墳	福岡市西区	古墳(円墳)	周溝	蓋	半円点文全面施文	7世紀		54
93	吉武塚原古墳群8号墳	福岡市西区	古墳(円墳)	周溝	高坏		6世紀末		54
94	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	SD-08	蓋	多弁花文を施文	7世紀後半		55
95	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	SD-26(SB-31東雨落ち溝)	蓋	縦長連続文a類(連続馬蹄形文)を施文	7世紀後半		55
96	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	SB-31	蓋	縦長連続文b類(列点文)・多弁花文を施文	7世紀後半～8世紀		55
97	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	整地層	壺	多弁花文・横長連続文を施文	7世紀後半～8世紀		55
98	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	整地層	壺か	多弁花文を施文	7世紀後半～8世紀		55
99	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	整地層	壺か	縦長連続文b類(列点文)・多弁花文を施文	8世紀		55
100	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	SK-358	蓋		7世紀後半～8世紀		56
101	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	江戸～明治期以降の盛土層	長頸壺	肩部に円弧文を施文	7世紀後半～8世紀		57
102	鴻臚館跡	福岡市中央区	官衙	江戸～明治期以降の盛土層	壺	肩部に縦長連続文a類(連続馬蹄形文)を施文	7世紀後半～8世紀		57
103	多々良込田遺跡	福岡市東区	津関連官衙	SD-04	瓶	縦長連続文b類(列点文)をc手法で施文	8世紀以降		58
104	海の中道遺跡	福岡市東区	太宰府関連生産遺跡	第3調査区	扁瓶		9世紀		59
105	井相田C遺跡	福岡市西区	集落	SK-85・94・表探	壺	円弧文を施文	8世紀		60
106	塚田遺跡	糸島郡二丈町	鉄製品生産遺跡か	包含層	壺	円弧文を施文	8世紀		61

一覽表作成主要参考文献

- 江浦 洋 1988「日本出土の統一新羅系土器とその背景」『考古学雑誌』第74巻第2号 日本考古学会  
宮川 禎一 2000『陶質土器と須恵器』日本の美術407 至文堂

一覽表参考文献

1. 鉢柄木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000「北原東・下谷田遺跡」『埋蔵文化財センター年報』第10号平成12年度
2. 今平利幸ほか 1991『前田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第29集 宇都宮市教育委員会
3. 酒井清治 1996「下野国出土の統一新羅系緑釉陶器」『韓式系土器研究』VI 韓式系土器研究会
4. 芳賀町教育委員会 1992『免の内台遺跡』栃木県芳賀町文化財報告第15集
5. 植木茂雄ほか 1993『免の内台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第134集 栃木県教育委員会

6. 栃木県教育委員会 1999「落内遺跡」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』21 平成9年度 栃木県埋蔵文化財調査報告第231集
7. (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999「惣宮遺跡」『埋蔵文化財センター年報』第9号 平成11年度
8. 中山 晋ほか 1988『郭内遺跡 松香遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第94集 栃木県教育委員会
9. 石井則孝 1977「千葉県富津市出土の新羅焼土器」『史館』第8号 史館同人
10. 東森 晋 1999「(2)古八幡付近遺跡」『島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター年報』Ⅷ平成10年度 島根県教育委員会
11. 山内紀嗣 1988「山口県心光寺2号墳の出土遺物をめぐって」『網干喜教華甲記念考古學論集』 網干喜教華甲記念会
12. 白井克也 1999「大野城出土新羅土器の再検討-須恵器との並行関係ならびに流入の背景」『福岡考古』第18号 福岡考古懇話会
13. 江浦 洋 1989「3.東郷遺跡出土の新羅土器について」『東郷遺跡発掘調査概要』I大阪府教育委員会
14. 瀬川眞美子ほか 1988「野々上遺跡」『古市遺跡群』IX 羽曳野市埋蔵文化財調査報告書16 羽曳野市教育委員会
15. 江浦 洋 1987「日本出土の統一新羅系土器とその諸問題1」『太井遺跡(その2)』(財)大阪文化財センター
16. 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 1979「アカハゲ古墳」『飛鳥時代の古墳』
17. 江浦 洋 1989「近畿地方(7)-近畿地方の新羅系土器-」『陶質土器の国際交流』 柏書房
18. 大阪府立近つ飛鳥博物館 1988「小山」『発掘速報展大阪'98』平成9年度冬季企画展図録
19. 田中友美ほか 1995「IV中野遺跡」『平成6年度富田林市内遺跡発掘調査報告書』 富田林埋蔵文化財調査報告26 富田林市教育委員会
20. (財)大阪府文化財調査研究センター 1998『大陸文化へのまなざし-発掘速報展大阪-』 大阪府立博物館平成10年度特別展図録
21. 森田克行ほか 1993『新地 新地埴輪製作遺跡発掘調査報告書』 高槻市文化財調査報告書 第7冊 高槻市教育委員会
22. 江浦 洋 1992「新羅緑釉蓋について」『大坂城跡の発掘調査』2 大坂城跡発掘調査概要3 (財)大阪文化財センター
23. (財)大阪市文化財協会 1985「XII生野邸建設工事に伴う難波宮跡発掘調査(NW83-20)略報」 『昭和58年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』
24. 伊藤 純 1991「スタンプのある土器三例」『葦火』34号 (財)大阪市文化財協会
25. 佐藤 隆ほか 1995『難波宮址の研究』第10 (財)大阪市文化財協会
26. 佐藤 隆ほか 2000『難波宮址の研究』第11 (財)大阪市文化財協会
27. 奈良国立文化財研究所 1985「藤原宮東方官衙地域の調査 b藤原宮第41次調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』15
28. 奈良国立文化財研究所 1987「左京六条三坊の調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』17

29. 奈良国立文化財研究所 1985「石神遺跡第4次調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』15
30. 江浦 洋 1988「日本出土の統一新羅系土器とその背景」. 考古学雑誌』第74巻第2号 日本考古学会
31. 西口寿生 1993「石神遺跡の調査」『奈良国立文化財研究所年報』 奈良国立文化財研究所
32. 奈良国立文化財研究所 1976『奈良国立文化財研究所年報』
33. 愛知県陶磁資料館 1998『日本の三彩と緑釉-天平に咲いた華-』
34. 奈良国立文化財研究所 1986「豊浦寺第3次調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』16
35. 土橋理子 1982「奈良県出土の輸入陶磁器について」『考古学論攷』第7冊 奈良県立橿原考古学研究所
36. 奈良国立文化財研究所 1999- II「飛鳥池遺跡の調査-第87次、第93次」『奈良国立文化財研究所年報』
37. 柳沢一宏 1988『神木坂古墳群II』榛原町文化財調査報告第3集 榛原町教育委員会
38. 阪口俊幸 1983「奈良県南山古墳群」『日本考古学年報』36 日本考古学協会
39. 宮崎光明・江浦 洋 1989「日本出土の統一新羅系土器 盒」『韓式系土器研究』II 韓式系土器研究会
40. 清水真一 1993「桜井市内出土の統一新羅時代土器の新例」『古文化談叢』第30集(中) 九州古文化研究会
41. 村瀬勝樹 1991「天理市櫛本町長林新地表採の統一新羅系陶質土器」『韓式系土器研究』III 韓式系土器研究会
42. 千田剛道 1989「平城京出土の唐・統一新羅陶器」『MUSEUM』No.461 東京国立博物館
43. 奈良国立文化財研究所 1987「内裏東方東溝地区の調査 第172次」『昭和61年度平城京跡発掘調査部発掘調査概報』
44. 田辺征夫 1986「左京九条三坊十坪出土の新羅製印花文壺」『奈良国立文化財研究所年報』 奈良国立文化財研究所
45. 千田剛道ほか 1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』 奈良国立文化財研究所
46. 安藤真策 1976「大覚寺古墳群発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概要』 京都府教育委員会
47. 藤田和裕ほか 1984『コノフ採遺跡』 上対馬町文化財調査報告書第1集 長崎県上対馬町教育委員会
48. 勝本町教育委員会 2000『勝本町教育委員会配布資料』
49. 舟山良一 2000「鬼の窟古墳」『古墳出土須恵器集成』第5巻西日本編I 雄山閣出版
50. 酒井仁夫ほか 1977「福岡県大野城市乙所在古墳群の調査」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』IX 福岡県教育委員会
51. 小田富士雄 1988「対馬・北部九州発見の新羅土器」『古文化談叢』第19集 九州古文化研究会
52. 宮川禎一 2000「印花文に見える隋代陶磁の影響」『陶質土器と須恵器』日本の美術407 至文堂
53. 狭川真一 1993「太宰府成立期の遺構と遺物-未報告資料の抜粋-」『古文化談叢』第30集(中) 九州古文化研究会

54. 二宮忠司ほか 1980『吉武塚原古墳群』 福岡市埋蔵文化財調査報告書第4集 福岡市教育委員会
55. 山崎純男ほか 1993「鴻臚館をめぐる諸問題 鴻臚館跡出土の新羅・高麗陶器」『鴻臚館』Ⅲ 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第355集 福岡市教育委員会
56. 瀧本正志 1994『鴻臚館』4 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第372集 福岡市教育委員会
57. 田中壽夫 1998『鴻臚館』9 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第586集 福岡市教育委員会
58. 山崎純男 1985『多々良込田遺跡』Ⅲ 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第121集 福岡市教育委員会
59. 横山浩一ほか 1982『海の中道遺跡』 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第87集 福岡市教育委員会
60. 山口讓治 1987『井相田C遺跡』Ⅰ 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第152集 福岡市教跡発掘調査部発掘調査概報
61. 橋口達也・中間研志 1982「塚田遺跡」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第7集 福岡市教育委員会